

DXを活用した行政・住民サービス事業の実証実験

☐ 住む ☐ 癒す ☐ 学ぶ
☐ 動く ☐ 楽しむ ☒ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

<自治体の課題（短期：今回の主たる対象）>

- ・避難住民の帰還、移住・定住人口の増加
- ・産業誘致、雇用創出、地域活性化・持続性
- ・行政サービスの効率化（行政職員の不足、技術職の減少）
- ・基盤インフラの維持（住民との共創）

<住民・従業員の課題（3～5年以内）>

- ・移動手段の確保
- ・医療、教育等のサービス享受
- ・防災まちづくり
- ・観光振興 等

②提案の概要

1. 目指す姿・到達目標 : 浜通り版 スマートシティの形成 ～Society5.0の実現～

2. 実現のための基本的な考え方:

- ・①の地域課題の解決には、デジタルの徹底活用による多様な連携(主体・事業・地域)の促進が重要であり、その基盤となるインフラの充実やマネジメントが必要(当グループの事業の「軸」)
- ・低未利用地が多く残り、住民の帰還が進まない中、浜通り地域に多様な企業が進出し、実証実験のフィールドとして人・モノが集積する環境づくりを目指す(中長期は社会実装)。

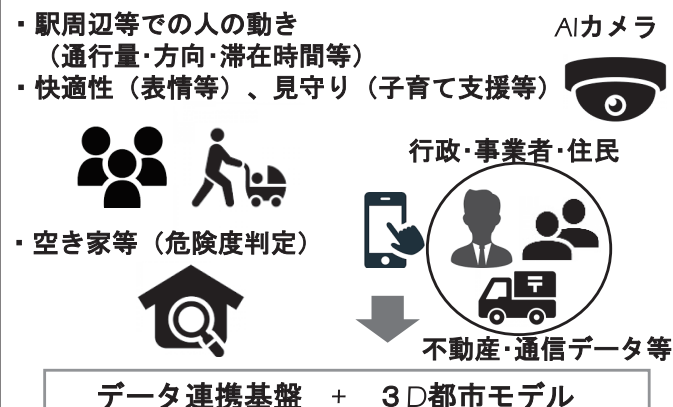
3. 提案の概要:

- ・実証事業実施期間では対象エリア・内容を限定し、データ連携基盤および3D都市モデルを構築。住民の帰還・移住・定住の増加を促進するため、「空き家問題」から取組みに着手。専用アプリの開発等により行政・住民・事業者が協働で空き家情報を蓄積。プラットフォームを構築(シビックテック、住民参加型まちづくりの推進・定着)
- ・併せて、駅周辺等にAIカメラを設置し、来街者やまちなかのデータを取得。人の流れや滞在時間等の基礎データ取得の他、地域の「見守りサービス」に活用(高齢者・子育て世代支援)
- ・実証事業実施期間以降のサービス拡充も視野。具体的には、自治体による国の補助申請や事業の社会実装を支援。対象市町村の拡大(自治体間連携)や、F-REI・地元企業をはじめとする多様な関係者との協働・共創により、医療MaaS、自動運転、リモート教育、地域通貨、6G通信、スマートインフラ等へ拡充(マネタイズを考慮したビジネスモデル、事業継続性の確保)

- ・自動運転、医療MaaS、リモート教育、地域通貨等のサービス拡充、スマートインフラや6G通信等の新たな技術開発
- ・市町村連携(広域連携)によるエリア拡大 等

F-REIや地元企業等との連携

国の補助金の活用



③事業実施に対し必要な要件

- ・自治体による都市計画基礎調査等の各種データ提供
- ・地域住民との合意形成・実証実験実施の環境づくり支援
- ・次年度以降、自治体による国の補助金申請等の協力

④想定スケジュール

- 令和5年度 : 事業内容・スキーム検討、基礎データ取得 等
- 令和6年度 : データ連携基盤、3D都市モデルおよび空き家対策等アプリのパイロット実証実験(地域・期間限定)

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

「ヒトとマチの動かし方」共創 実証事業プロジェクト

☐住む ☐癒す ☐学ぶ
☒動く ☐楽しむ ☐その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

課題のイメージ：自治体間（浜通り地域全体）の交通が連携できていないというヒトの交通課題とそれに紐づくマチの生活課題。
自治体間（浜通り地域全体）の交通課題とは、自治体間の交通の分断、いわゆる交通空白地帯である。葛尾村を例にとると、村内を運行する交通支援バス、村外まで運行する路線バスがある。交通支援バスは自宅から村中心の診療所訪問などに利用できる。さらに路線バスに乗り換えると船引（中通り）に出て行くことができる。一方、浜通り方面への交通はない。このような交通空白地帯は、地域全体で生じている。また交通課題の解決を目指す上では、実態人口の把握が困難であることや震災後の人口の戻りが少ないこと等に起因する地域コミュニティの衰退等、生活課題とも紐づけて考える必要がある。これらの課題解決のため、まずは既存交通のビジネス的な運用問題の解決や交通弱者などを中心とした住民（ヒト）の交通利便性の向上を目指す。

②提案の概要

自治体内の既存交通アセット（資産）を活用した
浜通り地域全体のヒトの交通課題解決からマチ全体のデザインを

STEP1
自治体の交通・
生活実態を把握

交通課題の解決には、現在の交通網の把握と住民（ヒト）のコミュニティなど生活実態（マチ）の把握が必要不可欠である。そのため、まずは自治体内ごとで住民を巻き込んだワークショップや公共交通事業者様などの公共交通会議を実施する想定。

STEP2
地域交通のデザインと
生活のデザインの両立

交通課題や公共交通（既存交通アセット）に応じてソリューションをカスタマイズ（※1）、導入し地域交通をデザイン。その際、住民（ヒト）の住む/癒す/学ぶ/楽しむなどの生活導線も加味した交通による生活（マチ）のデザインを行う想定。

STEP3
浜通り地域創生MaaS×
脱炭素

将来的には、各エリアの交通情報を共通のシステムで管理することによって、浜通り地域全体の乗り換え情報の提供などにより移動をスムーズにし、浜通り地域全体の交通利便性の向上に繋げる。また、地域交通のEV活用による脱炭素化なども目指す。

地域交通に応じた解決システムのカスタマイズ



(※1)

弊社 地域の交通課題に応じてカスタマイズ可能な
地域交通課題ソリューション

③事業実施に対し必要な要件

自治体内の交通・生活実態の把握にあたり、既存の公共交通事業者様、住民の皆様との意見交換が必要不可欠であると考えております。その際の参加の呼びかけ等はお力添えいただけますと幸いです。また、実証には、既存公共交通事業者様との連携が必要不可欠です。

④想定スケジュール

- ・令和5年度中：自治体の交通・生活実態を把握（STEP1）
- ・令和6年度～：地域交通のデザインの実施へ（STEP1～2）
- ・令和6年3月：中間成果を実施

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

会社名：株式会社 博報堂

デジタルツイン構築による物流等サービス実証

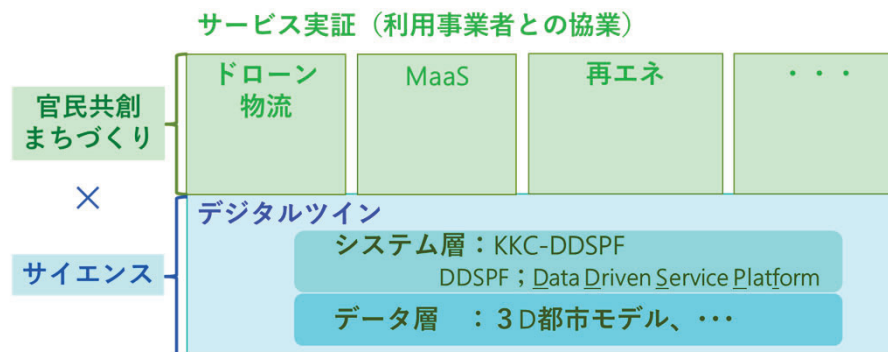
☐ 住む ☐ 癒す ☐ 学ぶ
☐ 動く ☐ 楽しむ ☒ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

- ・当該自治体は、長期避難に伴う大幅な人口減少に伴い、生活基盤の崩壊や著しい公共サービスの低下が生じている。また、F-REI関係者には、新たな居住地域として魅力ある生活環境の提供も必要である。
- ・特に、当該自治体では、物流サービスなどコスト増大や人員確保が大きな課題である。自治体が抱える様々な課題解決には、デジタルツインを活用したスマートシティの実現が不可欠であり、効率的な公共サービス、民間事業者のサービス確保が必要である。

②提案の概要

- ・「デジタルツインの構築と利用環境」を提供し、「物流サービス等の効率化」を実証する。
- ・デジタルツインは、国土交通省オープンデータ「3D都市モデル」等の空間データと「サービスプラットフォーム（KKC-DDSPF）」で構築し、提供する。 * KKC-DDSPF：国際航業社製Data Driven Service Platform（データ駆動型サービスプラットフォーム）
- ・「3D都市モデル」は、建物、鉄塔などの建造物や森林など、生活空間の3次元データである。また、気象情報（降雨状況）も活用する。
- ・「サービスプラットフォーム」は、3D都市モデルと気象情報等をデータ統合し、リアルタイム情報配信するシステムである。
- ・デジタルツインを活用して、物流における無人航空機（ドローン）による受配送の飛行ルート生成や飛行管理を行い、住民サービスの向上と物流コストの低減を実証する。また、物流の自動走行支援やMaaS、RE（再生可能エネルギー）等の分野への活用も検討する。
- ・弊社は、デジタルツイン構築を担当し、物流サービス等は、他企業との協業で実証を予定する。
- ・本実証事業の成果は、浜通り全地域に適用できるとともに、全国への横展開を想定している。



③事業実施に対し必要な要件

- ・実現可能性調査における行政、住民、事業者のニーズや実現手法の立案への協力、参画
- ・サービス実証のための行政、住民、事業者の協力、参画

④想定スケジュール

- ・令和5年度：実現可能性調査（ニーズ調査、実現手法の立案）
- ・令和6年度：デジタルツイン構築とサービス実証（利用事業者との協業）
補足：利活用実証は一定の予算措置を前提とする。

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

会社名：国際航業株式会社

ChatGPTを活用した市民サービスの向上とデータ収集活用

☐ 住む ☐ 癒す ☒ 学ぶ
☐ 動く ☐ 楽しむ ☐ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

浜通り地域等が今後抱えると思われる課題のイメージとして、国際的な研究者やその家族が移住・定住することにより自治体の人材やサービスの不足、課題の多様化が挙げられると考えられます。言語や文化の違いにより、市民が疑問や困難に直面する場面も増えるでしょう。特に空き地空き家探しは個別的で複雑な問題です。そこでChatGPTを活用することで、**移住・定住・空き家の利活用を支援するとともに、求められる物件の傾向や特徴をデータとして収集し分析することができると考えられます。**

②提案の概要

私たちは、自治体のサイト内にChatGPTを活用した空き地空き家に関する質問コーナーを設置することを提案いたします。この機能では物件をお探しの方が空き地空き家に関する質問を入力すると、ChatGPTが最適な回答や提案をしてくれます。返答の内容は独自に用意した内容でカスタマイズできるため、求められる物件種類の対応や家主が登録する場面の対応も可能です。これにより課題解決は勿論のこと、**集まったデータをもとに物件ニーズにこたえるための施策を検討することもできます。**さらに浜通り地域への関心や注目も高まることが予想されます。実際、自治体ChatGPTを導入する事例は増えていますが、**一般の方々に開放するものはまだ少なく、珍しい事例**となるはずで**す**。この提案は今後も発展していく可能性を秘めており、子育てや介護といった自治体が抱える地域の課題解決にも繋がると考えられます。



③事業実施に対し必要な要件

自治体等のサイト内にChatGPT技術を導入することに伴う計画と要件定義のご協力
(カスタマイズ内容打ち合わせ等)

④想定スケジュール

今年度は要件定義に注力を注ぎ来年度内導入を想定

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

会社名：株式会社URシステムズ

ドラレコ画像を活用した道路変化点検知

☐ 住む ☐ 癒す ☐ 学ぶ
☒ 動く ☐ 楽しむ ☒ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

浜通り地域内において、あまり使われなくなった道路では、道路設備の不具合について情報収集が困難となっており、交通事故誘発の懸念がされている。当社はドライブレコーダー（以下ドラレコ）画像と、当社保有の地図情報を活用して、道路の変化点を効率的に検知する取組を行っている。ドラレコ画像は日々街中を走っているタクシー、商用車、公用車に設置されているドラレコ画像を活用するため、情報鮮度が高く、検知した情報を警察や自治体に提供することで、道路メンテナンス業務削減につなげたいと考えている。

②提案の概要

【実施内容】

当社は、タクシー、商用車、公用車向けに普及しているドラレコ画像と位置情報、当社地図情報を用いることで「道路変化点検知」を行い、ナビ地図データの鮮度向上を目指している。同様の仕組みを用いて、検知した道路変化点を自治体と県警に提供することで、道路設備の不具合を解消するためのリードタイム短縮に活用できるか検討も行っている。今年度、浜通り地域のフィールドを活用し、対象地域で走行しているドラレコ搭載車両から「標識・路面標示の摩耗具合」「道路性状の損傷具合」「危険な植栽」等の情報を収集、確認し、ドラレコ画像の有用性を確認する。

【新規性・事業性】

- ・ 現状の道路管理者の運用として、道路性状を調査する際、専用の調査（パトロール）車両にドラレコを設置している。当社は普段走行している車両のドラレコを活用し、パトロール車での調査業務を削減し、且つ鮮度の高いドラレコ画像から、変化点検知ができる。
- ・ ビジネスモデルとしては、変化点検知情報および蓄積された画像データを警察、自治体へ提供するサービスとして想定している。

【実証後の展開】

- ・ ドラレコ画像の有用性が確認できた場合、目視でなくAIによる自動検知の技術研究の実施
- ・ 網羅的にドラレコデータが取れる車両（公用車、商用車、見守り隊、青色防犯車両等）の検証
- ・ 自治体、福島県庁と福島県警への情報提供により、道路メンテナンス業務への活用検討の提案

図1：変化点検知イメージ



③事業実施に対し必要な要件

- ・ ドラレコ画像データの提供元の確保
- ・ 自治体、福島県庁、福島県警へのニーズの確認
(上記2点とも必須条件ではありません)

④想定スケジュール

- ・ 11月 実施計画策定、現地視察
- ・ 12～2月 ドラレコ画像の目視・対象地物の摩耗具合等の確認、取得画像有用性検討

⑤地元企業等とのマッチング希望

☐ あり ☒ なし

会社名：株式会社ゼンリン

ふくしま浜通りSDGs圃場研修交流会

☐ 住む ☐ 癒す ☒ 学ぶ
☐ 動く ☐ 楽しむ ☐ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

- 浜通りエリアの「原風景の復活」を合言葉に「圃場」というツールを活用して人口交流を活性化させることで、浜通りへの関心を促す。
- バイオマスプラスチック用のお米の作付けをトリガーに企業や学校等から参加頂き、バイオマスプラスチック製品となって参加者に還元されるサービス等を展開する。これにより地元の圃場に企業等が足を運ぶことで、関係人口・交流人口創出につなげる可能性を検証。
- 参加者が作られたお米のプラスチックが、例えば自治体内で使用される指定ごみ袋になるなど、CO2の削減に貢献することで参加企業のSDGs活動にもつながる他、自治体のゼロカーボンシティへの取り組みと連携する仕組みを検証する。

②提案の概要

- **ライスレジン原料米の作付け 企業・学校間連携**
 - 企業間連携でライスレジン原料米の生産を行う。
 - 出口となる製品化を明確にして取り組むことで、企業価値の向上に寄与し、企業版SDGsへの取り組みとして高く評価される可能性を検証。
 - 本取組が自治体のゼロカーボンシティへの取組に連携するためのスキームを検証。

企業さまからのご依頼で新人研修会を実施（一例）

令和5年4月25日-26日 浪江町「いこいの村なみえ」会議室にて、新人7名、アテンド2名の計9名

研修テーマ：『原発事故と農業再生の意義～農業と環境のり・デザイン』

※別途参考資料参照

<イメージ>



③事業実施に対し必要な要件

- ・実施圃場の相談、自治体からのPR及び結果報告等に関する協力。事業全般に関する相談と伴走など。

④想定スケジュール

- ・令和5年度：参加企業・団体募集、事業内容調整
- ・令和6年度：実証（田植え、収穫、ライスレジン製品化、研修）

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

会社名：株式会社スマートアグリ・リレーションズ

極端化する気象現象を踏まえた安全・安心な街づくり支援

☐住む ☐癒す ☐学ぶ
☐動く ☐楽しむ ☒その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

2022年8月の東北地方北部の線状降水帯や、2023年1月の東海・関西地方での強い冬型に伴う大規模な交通インフラの影響に代表されるように、近年の日本国内において**極端化する気象現象**が、経済活動に対し大きな影響を及ぼしている。一方で、このような気象現象が発生する際に、**自治体としては住民に対して確実な情報伝達を行う必要性**がある。また、この情報伝達を実現するためには、**変化する気象現象に対して住民からの被害情報等を入手する事も重要な判断材料**となる。これらを実現するために、日々の中で、この情報伝達ツールの利用の活用可能性を検討するものとする。

②提案の概要

- 本システムは**LINEのチャットボット機能**を用いて住民からの被害状況を収集し、その被害情報の種別等を集約するものである。従前は自治体から住民に対して、被害状況等を情報発表する事を主としていたが、本実証事業では、住民も被害状況等をLINEを通じ投稿を可能とする。この投稿内容を**AIで自然言語解析**する事で、**被害状況等を自動分類する事が可能**となる。
- 災害時に多くの住民が本ツールを利用可能とする事を目的に、普段から本機能を用いて**自治体と住民とのコミュニケーションツール**としての利用を想定し、自治体との協議の元、本機能を最大限活用できる事を検討を行う。
- 地域住民への本ツールの利用向上を目的に、**地域住民を対象とした講習会を実施する事**を想定している。



③事業実施に対し必要な要件

- 本ツールはLINEを用いるものである。本ツールを用いるため自治体の公式LINEアカウント等に関する事前確認/協議予定。
- 本実証事業は1自治体を想定

④想定スケジュール

- 採択後3ヶ月程度 : 協議・準備/設定期間
- 設定完了後～2024/3 : 実証事業期間

⑤地元企業等とのマッチング希望

☐ あり ☒ なし

会社名 : 株式会社ウェザーニューズ

防災をテーマにした子どもたちへの先端教育、ワークショップの実施

☒ 住む ☐ 癒す ☒ 学ぶ
☐ 動く ☒ 楽しむ ☐ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

- ・ ICT教育の推進、子どもたちへの先端教育の提供
- ・ 災害時に備えた安心・安全の確保のためのソリューション検討のきっかけ作り、ICTによる新しい街づくり（避難ルートナビの役割）

②提案の概要

- ・ 中学校等の教育機関と連携し、プログラミング（スクラッチ）やAI、blockchain、IoT、XR（VPS）など、多くの先端技術について触れ、学んでもらう授業・ワークショップを実施する。
- ・ 過去に実施した事例では、子どもたちが上記技術を学んだ結果、農業における収穫の効率化のための視覚支援アプリケーションや、建設現場などでの転倒検知を行うセンサーアプリケーション等、彼らが住む地域の課題を解決するための様々なアイデアが生まれた。
- ・ 今回は、被災地での実証であるので【防災・災害時に役立つ】をテーマに授業・ワークショップを実施したい。
- ・ 具体的にワークショップでは、こどもたちに3Dソフトを使ってアート作品を作ってもらい、それを地元の小学校や公民館等の避難場所の候補となる場所にVPSという視覚情報を元に、ARオブジェクトをマッピングする技術を活用して配置する。（携帯をかざすことで簡単に閲覧可能）
- ・ 将来的には、平時にはこどもの作品やアート作品の展示閲覧ツールとして、災害時には避難場所等へ視覚的に誘導するツールとして活用できるよう、普段から技術に触れて、親しんでもらうきっかけ作りを目的とする。



③事業実施に対し必要な要件

- ・ 教育機関との連携（ふたば未来学園等）、機会の提供
- ・ 参加する学生がGIGAスクール端末を持参すること

④想定スケジュール

令和5年度10月～自治体との協議開始
 年内にワークショップ実施、年明け～アート作品の展示

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

会社名：株式会社DeNA

浜通り地域における基幹病院と診療所のD to D遠隔医療体制の構築

☐ 住む ☒ 癒す ☐ 学ぶ
☐ 動く ☐ 楽しむ ☐ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

- ・相馬エリア：避難等による住民・医療従事者の流出により厳しい状況にある医療提供体制の再構築が必要
東日本大震災の影響により、浜通りが南北に分断
- ・双葉エリア：全町村が役場機能を移転し住民のほとんどが避難し、医療機関の多くが休止しており、医療提供体制の再整備が必要
『限られた医療資源を活用し、高度医療機関との連携が必要』

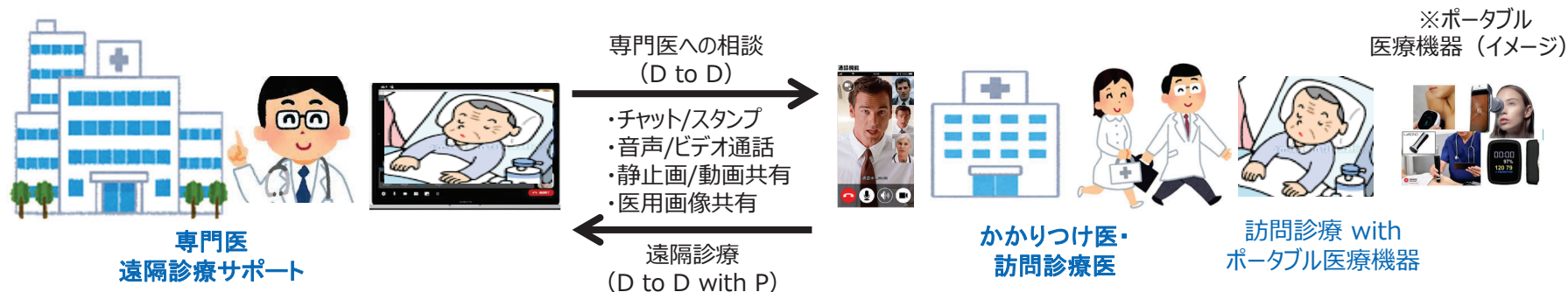
⇒Doctor to Doctor with Patientの遠隔診療体制を構築することで、地域住民が安心して医療を受けることができる体制を目指す

※福島県浜通り地方医療復興計画の概要より一部抜粋

②提案の概要

- ・医療関係者間コミュニケーションアプリ「Join」による、かかりつけ医や訪問診療医と専門医のD to Dコンサルトや、ビデオチャット機能を用いたD to D with Pやポータブル医療機器を用いた遠隔診療体制の整備を行い、専門医から診療支援を受けることができる体制を目指す。

※図はイメージであり、現地調査を踏まえ一部仕様変更となる可能性がございます



③事業実施に対し必要な要件

対象医療機関及び訪問診療医への「Join」の導入、ポータブル医療機器など物理的・システム的な連携の構築及び運用ルールの方策定、等

④想定スケジュール

令和5年度（10月～3月）：機器整備及び、構築
 令和6年度（4月～9月）：実証期間
 令和6年度（10月以降）：データ整理、エビデンス創出

⑤地元企業等とのマッチング希望

☐ あり ☒ なし

会社名：株式会社アルム

DigSportsによるスポーツとテクノロジーの体験格差解消の試み

☐ 住む ☐ 癒す ☒ 学ぶ
☐ 動く ☒ 楽しむ ☐ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

子どもの体験格差

- ・ 少子高齢化や児童生徒数減少により、子どもが経験するイベントや新しいものに触れる機会が減っていると思われる
- ・ 現在の子どもの体験格差は、子どもの持つ可能性を狭めてしまったり、世代間連鎖に繋がる恐れがある

②提案の概要

DigSportsを活用したイベント実施でスポーツとテクノロジーの体験機会を提供

- ・ DigSportとは、AIを用いた運動能力測定を通じて、ピッタリなスポーツを提案するシステムです。Webカメラの前で5種目の動作を行うだけで、AI画像解析によって運動能力を測定します。一人ひとりの長所を見つけ出すことが可能なため、運動が苦手な方でも楽しめます。
- ・ 自分の向いているスポーツを知ってもらうことで、スポーツを身近に感じ、自身の可能性を想像して頂くことができます。
また、DigSportsではAI画像認識等の新しいテクノロジーが利用されています。実際にAI活用されているシステムに触れていただくことで、テクノロジーがどういう場面で使われていくかを想像して頂くことができます。
- ・ 実証実験実施後は反響等を元に2つの展開を想定している
 - 1 : DigSportsを子どものスポーツとSTEM教育のきっかけとして、子供のスポーツ振興とSTEM教育の推進への寄与
 - 2 : DigSportsのシニア版によるフレイル予防・デジタルデバイド解消

③事業実施に対し必要な要件

- ・ イベント場所の提供
- ・ 実証事業参加者の募集告知
- ・ モニター等イベントで使用する機材の貸与やスポーツ保険加入等

④想定スケジュール

- ・ 2023年10月OR 11月を目処にDigSportsイベントの実施
※詳細は参考資料を参照

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

会社名：株式会社電通国際情報サービス

地域の人たちが稼ぐ力をつけるプロジェクト～自然の翻訳者、インタープリター養成～ ☐楽しむ

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

浜通りが持つ自然の魅力を十分に発信・伝達できないという課題に対して、地域の方々と連携して下記の取り組みをおこなっていきます。
 色々な地域で自然を軸にした誘客や関係人口創出の取り組みをおこなっているヤママップが浜通りの方々と連携して地域ならではの魅力を発掘します。
 発掘した自然を地域の方々が自ら語れる人材を育成します。(インタープリター養成講座)
 育てた人材と自然や地域の魅力を触れたいユーザーの方とのマッチングを行い、地域の人たちが稼ぐ力をつけていきます。
 (ヤママップトラベル上での販売)

②提案の概要

ヤママップでは、各地域で「自然の翻訳者」であるインタープリター養成をおこなっています。インタープリター養成に参加される地元の方々は、それぞれが本業を持っている方になります。地域の自然や文化を活かし地方創生に取り組んでいきたいという熱意を持ったメンバーを集めて、YAMAP専属ガイドのひげ隊長指導のもと、全3回・8日間の講習を経てインタープリターを目指す取り組みになります。(実施回数などは要検討)。そこで育ったインタプリターの方々が自ら造成したツアーを、ヤママップトラベル上で販売することができる仕組みを構築していき、地域の方々が自ら稼ぐ力をつけていく取り組みを目指します。

インタープリター参考記事：<https://yamap.com/magazine/33592>

ヤママップトラベル：<https://travel.yamap.com/>

③事業実施に対し必要な要件

自然を軸にして自分たちの地域を盛り上げるために、インタープリターになりたいと思う地域住民を集めるために市区町村との連携が必要になります。また、このような取り組みを推奨して自社従業員を送り出したいと思う地元企業とのマッチングも希望。
 (過去実績ではホテル事業者との連携などの実績あり)

④想定スケジュール

- ・令和5年12月～令和6年3月：インタープリター候補生を募集
- ・令和6年4～10月：インタープリター養成講座の実施
- ・令和6年11月以降：ヤママップトラベル上での販売

⑤地元企業等とのマッチング希望

☐ あり

会社名：株式会社YAMAP

ドローンを活用した山林測量、山林管理の生産性向上

☐住む ☐癒す ☐学ぶ
☐動く ☐楽しむ ☒その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

山林の適切な管理は効果的、効率的な林業の確保のためのみならず、防災にも資するものであり、住民の安全・安心のために極めて重要である。しかし現在は人力による対象範囲の測量・樹種の確認を行っているため時間がかかり、非効率的である。については、山林管理における測量作業や樹種等把握の効率化を図ることを目的に本実証事業を行う。

②提案の概要

フジタで開発中のドローン緑地管理手法を用いて、山林管理に必要なデータを簡単に取得可能。

①UAVレーザー測量（ドローン測量）

山林にレーザー照射、跳ね返ってきた情報をデータ化
 →地形図を作成

②樹木解析

①で取得した点群データから、樹木を1本ずつ出力
 →樹木の本数、樹高など自動算出
 →山地全体を三次元で管理

③事業実施に対し必要な要件

- ・測量用ドローンが飛行可能な山林範囲をご提供ください。
- ・測量に用いる既知座標データをご提供ください。
- ・関係機関との協議にご協力ください。

④想定スケジュール

- ① 10月 フジタ技術センター内にて実験
- ② 10月 対象自治体に測量範囲等のヒアリング・計画作成
- ③ 11月 対象自治体提供の範囲にてデータの整合性確認（ドローンと人力による測量データの比較）
- ④ 12月 整合性確認後、修正計画の立案
- ⑤ 1月 実装を想定した測量実施（③より範囲を拡大）
- ⑥ 3月 成果報告シンポジウム

⑤地元企業等とのマッチング希望

☒ あり ☐ なし

会社名：株式会社フジタ

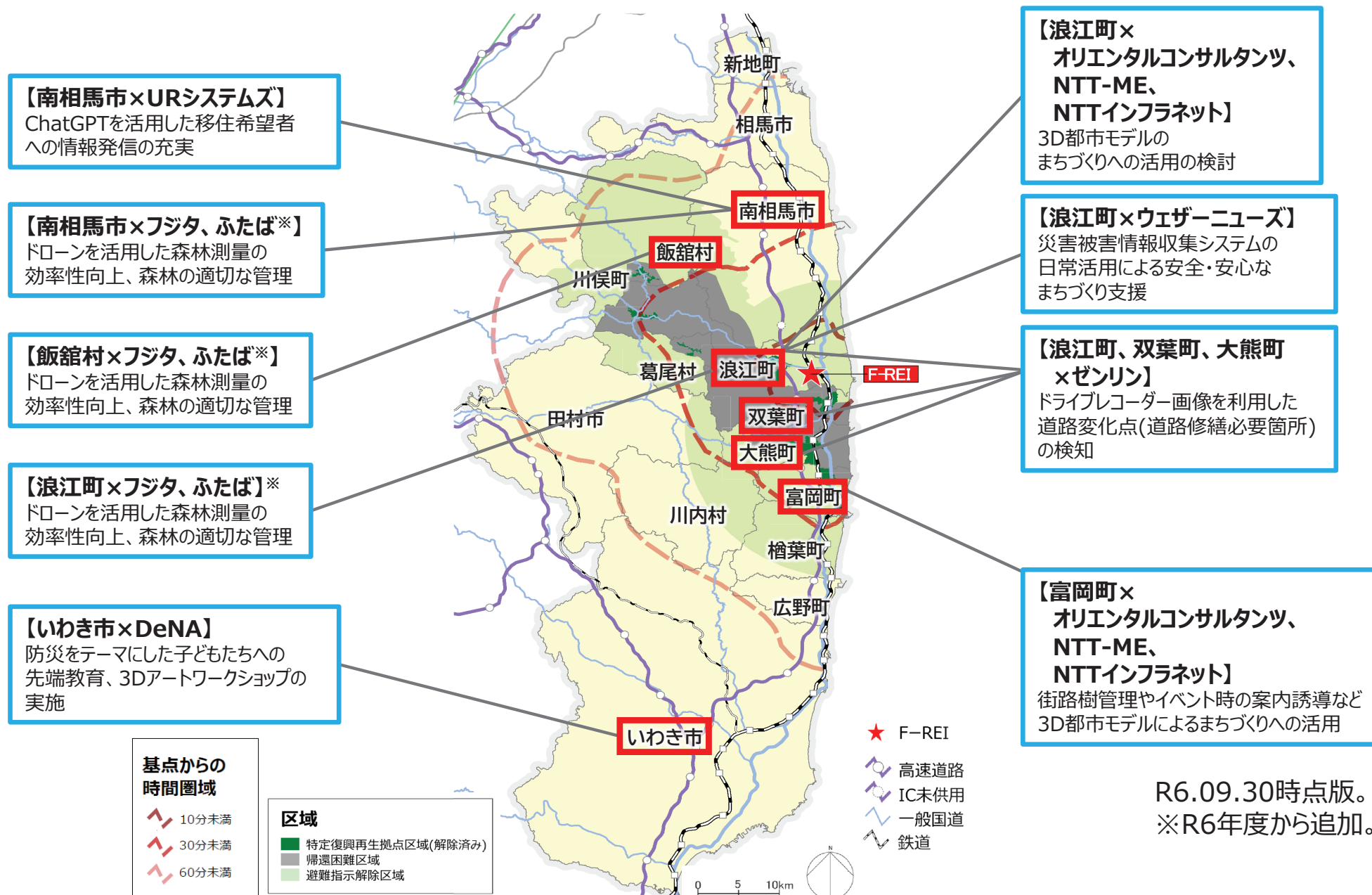
令和5年度提案事業のマッチング結果

	社名	実証事業概要	実施自治体
1	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 株式会社NTT-ME NTTインフラネット株式会社	3D都市モデルのまちづくりへの活用方策の検証 (富岡町)「夜の森地区」において3D都市モデルを用いたデータ基盤例を構築し、桜まつりの事前検討への活用を検討する。また、夜の森地区の復興まちづくりに寄与する活用の在り方を検証する。 (浪江町) F-REI門前町としてまちづくりを検討している地区において、3D都市モデルを用いたデータ基盤例を構築し、データ取得や管理方法などまちづくりに寄与する活用の在り方を検証する。	富岡町 浪江町
2	株式会社URシステムズ	ChatGPTを活用した市民サービスの向上 (空き家等照会対応サービスを事例として) 最先端のAI技術であるChatGPTを用いて、移住者による住宅についての問い合わせ対応の省力化を図るだけでなく、質問やその応答の分析を行うことで、市民サービス向上におけるChatGPTの有用性を検証する。	南相馬市
3	株式会社ウェザーニューズ	災害被害情報収集システムの日常活用による安全・安心なまちづくり支援 LINEチャットボット機能を利用し、災害時に住民からの被害状況を収集し防災／避難活動を支援するシステムを日常から住民に活用して頂くなど、平常時から地域の安心安全に繋がる情報プラットフォームの構築について検証する。	浪江町
4	株式会社DeNA	防災をテーマにした子どもたちへの先端教育、3Dアートワークショップの実施 先端技術に触れる授業、ワークショップを通じて、子どもたちに3Dアート作品を作ってもらい、避難場所等に配置・閲覧することによって、将来的に防災に役立つツールとして利用することができるのかを検証する。	いわき市
5	株式会社ゼンリン	ドライブレコーダー画像を活用した道路変化点（道路修繕必要箇所）の検知 タクシー、公用車等で取得したドライブレコーダー画像とゼンリンの保有する地図情報を活用することで、道路の変化点を効率的に検知し、道路メンテナンス業務量を削減する仕組みを検証する。	大熊町 双葉町 浪江町
6	株式会社フジタ 株式会社ふたば	ドローンを活用した山林測量、山林管理の生産性向上 現在人力で行われている山林管理における測量作業や樹種等把握の効率化を図ることを目的として、ドローンを活用した緑地管理手法が適用できるか実証する。	南相馬市 飯館村 浪江町

※R6.9.30時点版。

令和5年度開始の実証事業

6事業が実施中（7市町村を対象に9企業が参加）



R6.09.30時点版。
※R6年度から追加。

令和 5 年度
浜通り復興リビングラボ
～サイエンス×官民共創まちづくり～

【実証事業概要報告書】

令和5年度浜通り復興リビングラボ実証事業

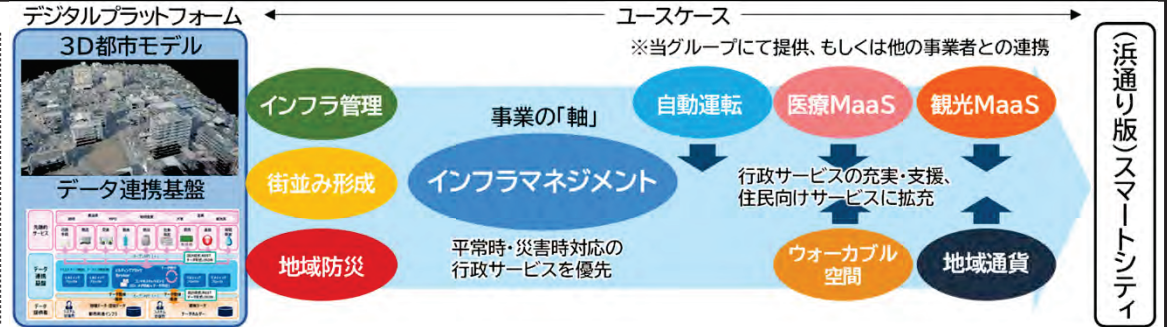
	社名	実証事業概要	実施自治体
1	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 株式会社NTT-ME NTTインフラネット株式会社	3D都市モデルのまちづくりへの活用方策の検証 (富岡町)「夜の森地区」において3D都市モデルを用いたデータ基盤例を構築し、桜まつりの事前検討への活用を検討する。また、夜の森地区の復興まちづくりに寄与する活用の在り方を検証する。 (浪江町) F-REI門前町としてまちづくりを検討している地区において、3D都市モデルを用いたデータ基盤例を構築し、データ取得や管理方法などまちづくりに寄与する活用の在り方を検証する。	富岡町 浪江町
2	株式会社ウェザーニューズ	災害被害情報収集システムの日常活用による安全・安心なまちづくり支援 LINEチャットボット機能を利用し、災害時に住民からの被害状況を収集し防災／避難活動を支援するシステムを日常から住民に活用して頂くなど、平常時から地域の安心安全に繋がる情報プラットフォームの構築について検証する。	浪江町
3	株式会社DeNA	防災をテーマにした子どもたちへの先端教育、3Dアートワークショップの実施 先端技術に触れる授業、ワークショップを通じて、子どもたちに3Dアート作品を作ってもらい、避難場所等に配置・閲覧することによって、将来的に防災に役立つツールとして利用することができるのかを検証する。	いわき市 富岡町
4	株式会社URシステムズ	ChatGPTを活用した市民サービスの向上 (空き家等照会対応サービスを事例として) 最先端のAI技術であるChatGPTを用いて、移住者による住宅についての問い合わせ対応の省力化を図るだけでなく、質問やその応答の分析を行うことで、市民サービス向上におけるChatGPTの有用性を検証する。	南相馬市
5	株式会社ゼンリン	ドライブレコーダー画像を活用した道路変化点（道路修繕必要箇所）の検知 タクシー、公用車等で取得したドライブレコーダー画像とゼンリンの保有する地図情報を活用することで、道路の変化点を効率的に検知し、道路メンテナンス業務量を削減する仕組みを検証する。	大熊町 双葉町 浪江町
6	株式会社フジタ	ドローンを活用した山林測量、山林管理の生産性向上 現在人力で行われている山林管理における測量作業や樹種等把握の効率化を図ることを目的として、ドローンを活用した緑地管理手法が適用できるか実証する。	南相馬市 飯館村

DXを活用した行政・住民サービス事業の実証

☐住む ☐癒す ☐学ぶ
☐動く ☐楽しむ ☒その他

①実証事業概要

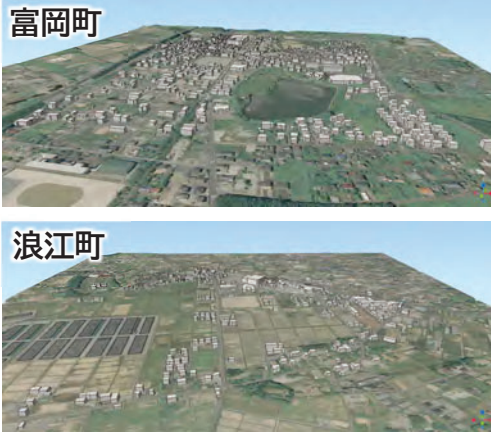
1. 目指す姿 : 浜通り版スマートシティの形成～Society5.0の実現～
2. 実現のための基本的な考え方: デジタルの徹底活用による多様な連携の促進と、その基盤となるインフラの充実やマネジメントが重要
3. 本実証事業の概要:
 - ・富岡町、浪江町の一部地区を対象に、データ連携基盤および3D都市モデル(デジタルプラットフォーム)を構築
 - ・インフラ管理や駅周辺まちづくり、地域防災等をユースケースとして、活用方法等を検証。その他、他の事業者との連携も視野



②実証事業結果概要

- ・実証対象の富岡町、浪江町と協議しながら地域ニーズ・課題等を把握。MMSでの計測等を通じ、「3D都市モデル+データ連携基盤」の構築に着手
- ・桜まつりで有名な富岡町での樹木管理、および駅周辺開発・F-REI建設計画が進む浪江町での街並み形成・地域防災等をユースケースとして、関連する「インフラ管理ツール」を開発中。行政サービスの効率化とそれに伴う地域住民へのサービス改善に期待

3D都市モデル



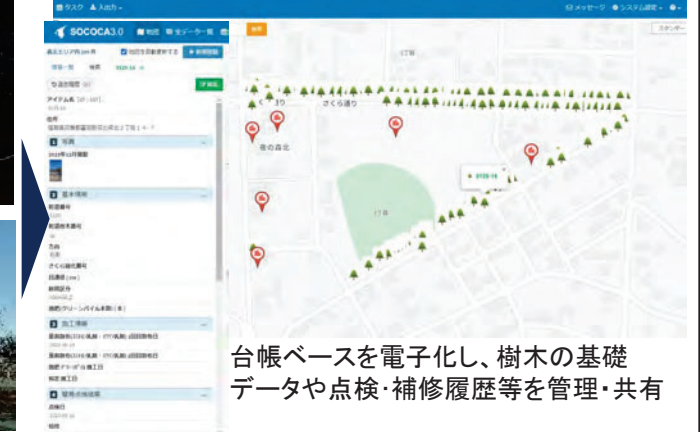
各種データ計測、ツール開発



デジタル空間での再現



樹木管理ツール(桜並木)



③今後の展望 (企業)

- 【富岡町】
- ・桜のデータ管理ツールの構築、桜まつりの実施計画の立案支援、国の補助活用検討
 - ・特定復興再生拠点区域のマネジメント支援(道路点検等)

- 【浪江町】
- ・周辺地区のまちづくり計画の検討に資するデジタル空間での街並み検証、国の補助活用検討
 - ・3Dハザードマップを活用した地域防災の検証 等

④実証事業実施の所感 (企業)

- ・避難指示解除から間もない富岡町・浪江町における「行政サービスの効率化」の必要性・重要性を再認識
- ・データ基盤の徹底活用と、広く関係者間での共有によるユースケースの拡大が復興の加速に有効

⑤今後の展望 (自治体)

- 【富岡町】
- ・桜のデータ管理ツールを活用した管理
 - ・桜まつりの運営へのデータ活用
 - ・特定復興再生拠点区域の早期復旧に向けた道路点検等への活用

- 【浪江町】
- ・F-REI周辺のまちづくり計画の検討に活用
 - ・浪江駅西側の人流シミュレーションへの活用

⑥実証事業実施の所感 (自治体)

- 【富岡町】
- ・町等で管理している様々なデータを統合し、連携基盤+3D都市モデルを活用できれば、業務高効率化にも繋がるため大いに期待
 - ・拠点区域活性化を加速させるツールとして期待

- 【浪江町】
- ・各種デジタルツールを活用することで、まちづくり計画検討に大いに役立つことを実感

極端化する気象現象を踏まえた安全・安心な街づくり支援

☐住む ☐癒す ☐学ぶ
☐動く ☐楽しむ ☒その他

①実証事業概要

浪江町では全町避難の影響による人口減少や極端化する気象現象への対応のため、①災害時の共助や、役所での被害状況の収集・把握が困難であること、②利用者の少なくなった道路の不具合等の把握が困難であること、③野生動物の生息エリアが変動し、住民の生活圏に被害が発生している等、という課題があります。これに対し、弊社はLINEをプラットフォームとするシステム（リスクロ）を活用し、人と人とのつながり・情報共有を促進することによる、平時から安全で防災フェーズフリーなまちづくりを提案いたしました。平時から道路の不具合や鳥獣の目撃情報をリスクロから町民同士や職員で共有し、災害時を想定した訓練においては、同ツールで被害状況を報告していただき、共助だけでなく職員の町内状況把握につなげる実証を行いました。

②実証事業結果概要

◆平時

システム操作の習熟、常にリスクロで情報共有することを習慣づけるために、投稿テーマの策定・通知、使用者からのフィードバックを受けたシステムの調整を行っています。

住民や職員間で猿の出没情報や、道路設備の不具合、工事中の情報等が地図上に共有され、対応が行われました。

住民同士の注意喚起だけでなく、被害が起きる前に迅速な対応を行うことができ、課題②③の解決に寄与することが検証できました。

◆災害時（訓練2月28日実施予定）

平時の利用を行うことによって、

- 1) より多くの市民利用者数の獲得
- 2) 災害時利用における操作習熟性の向上
- 3) 市民防災能力の向上 に寄与するか確認します。

2/5 (月)~2/11(日) 投稿テーマ

町中の安全をテーマに投稿してみよう！

所属 浪江町住民

設備不具合。歩道の地面から太さ3cmくらいの黒い電線管のようなものが20cmほどの高さまで突き出ています。夜は見えづらいので、つまづきに特に注意が必要です。できれば撤去願いたい。

■ 設備不具合 ■ 電気トラブル

namie-admin001 2024-02-06 10:32:21

浪江町役場です、情報ありがとうございます。昨日からの雪の影響で巡視しているところです。投稿いただいた個所についても、巡視班へ連絡いたします。

報告番号 5332

🕒 2024-01-16 15:42:33

📍 福島県浪江町末森堤ノ上-2 8

📷 2枚

所属 浪江町職員

熊・鳥獣。サル発見 20頭程度 100メートルくらい近づくとも逃げます。

■ 熊・鳥獣 ■ その他

③今後の展望（企業）

管理者側のシステム操作の多くを弊社で実施してきたが、今後は市町職員自らの手で主体的に運営できるレベルまで活用度を引き上げて頂けることを期待したい。

④実証事業実施の所感（企業）

居住人口の回復に苦慮されている現状がありながらも、より良い街にしていこうという想いが職員や市民の方々から感じられました。新しいことに挑戦する柔軟さや明るさをもった皆様とともにこの実証を行うことができ、良い成果に繋がれたと深く感謝しています。

⑤今後の展望（自治体）

- ・利用者数および投稿件数の拡大を図る。
- ・投稿内容について管理者側の対応方法の検討。

⑥実証事業実施の所感（自治体）

・リスクロを有効活用するためには、利用者の投稿数がとても重要なことを実感。利用者に対してのきめ細やかな情報提供が出来なかったことは今後の課題と感じた。

防災をテーマにした子どもたちへの先端教育、ワークショップの実施

■住む □癒す ■学ぶ
□動く ■楽しむ □その他

①実証事業概要

- ・ICT教育の推進、子どもたちへの先端教育の提供
- 児童に配布されているGIGAスクール端末を活用し、3Dコンテンツを作成。児童たちが作成した作品を拡張現実の空間に津波高の大きさを設置し、視聴することで、防災教育の推進・防災意識の再確認・災害記録の伝承を図った。
- ・災害時に備えた安心・安全の確保のためのソリューション検討のきっかけ作り、ICTによる新しい街づくり（避難ルートナビ的役割）
- 上記コンテンツを学校内に設置して視聴し、津波の大きさを実感してもらうだけでなく、避難場所にも設置することによって安全な場所を児童に認識してもらい、避難場所も確認した。

②実証事業結果概要

【日時・場所】 令和6年1月25日（木）豊間小学校
3時限目（10時20分～11時05分）：3Dコンテンツ作成
5時限目（13時20分～14時05分）：3Dコンテンツの視聴等

【対象】 豊間小学校の4年生26人

【企画】

ナミトルという津波と同じ大きさの怪獣を3Dコンテンツで作成し、学校・公園に設置、視聴することで、津波の大きさを体感するとともに避難経路について考える。

【ワークショップの流れ】

3時間目にGIGAスクール端末を活用し、26名分のデジタルコンテンツを制作
5時間目に一部の生徒のコンテンツ（5～6個程度）を校庭に設置し、端末（15台）で2班にわけて各自視聴体験。

後日、全コンテンツを校庭に配置するとともに、避難場所となる豊間公園にも避難場所の案内を設置、視聴。

【効果】 先端技術の授業で3Dコンテンツを作ることでデジタル技術への興味関心を高められただけでなく、自分達の生まれる前に津波が来た歴史学習や実際の津波の高さをARで知ることにより、安全な場所・避難場所を再確認することができた。



③今後の展望（企業）

- ・子どもたちの3Dコンテンツの常設展示。
- ・本ワークショップの他の自治体への横展開。
- ・ワークショップのその先として、子どもたちも巻き込んだ避難ルートナビの検討、デモの作成。

④実証事業実施の所感（企業）

- ・ICT教育、子どもたちへの先端教育の提供については、いくつもコンテンツを作ってくれる児童が多くみられ、スムーズに楽しんで受けてもらえた。
- ・避難ルートナビについては、引き続き自治体と協議して進めたい。

⑤今後の展望（自治体）

- ・他の学校などへの横展開を図り、防災教育を推進し、地域防災力の向上を図りたい。
- ・民間事業者や学術機関と連携し、災害時には安全な避難経路を拡張空間上に表示するなど、当該技術を活用し、災害対応力の強化に努めたい。

⑥実証事業実施の所感（自治体）

- ・児童の興味関心の高いデジタル技術を活用したことで、防災教育の普及啓発に繋がった。
- ・過去の災害を学ぶことにより、防災意識・防災知識の向上が図れた。

ChatGPTを活用した市民サービスの向上とデータ収集活用

☒住む ☐癒す ☒学ぶ
☐動く ☐楽しむ ☐その他

①実証事業概要

課題として考えられるもの

- 国内外からの観光客や移住・定住者の増加
自治体の人材やサービスの不足、課題の多様化



アプローチ方法

- 最先端のAI技術であるChatGPTを活用した南相馬市の魅力発信
「住」をメインに課題分析を行い更なるサービスの向上を図る

最終到達目標

南相馬市の魅力発信及び市民サービス向上を目指したChatGPTの役割を実証事業で検証し、今後の南相馬市におけるDX推進の方向性を見極める。

②実証事業結果概要

実証事業中間ご報告内容

活動内容の振り返り

南相馬市に合わせたChatGPT

南相馬市様からAIへ学習させたいデータをご提供いただき、そのデータをもとにAIの学習を進めております。
学習後は実際に回答状況を確認し、学習データの調整や仕様の変更を随時行って参ります。



その他のDX推進支援活動

南相馬市様がAIを使いこなすためのガイドラインを作成いたしました。これにより、AIを効果的に活用していただくことを目指しております。
さらに今後、AIに関する研修も計画しております。

今後構築予定の機能について

AIの知能を活用した分析機能を構築していく予定でおります。

③今後の展望（企業）

市民の皆様にもAIに触れていただけるプログラム
実際にChatGPTを使ったイベントを
今後企画予定

④実証事業実施の所感（企業）

南相馬市の皆様との交流を通じ、皆様のお役に立ちたいという意識が一層強まりました。そのため、技術の進歩に遅れを取らないよう、弊社は日々技術向上に努めております。

⑤今後の展望（自治体）

ChatGPTを活用したサービス提供
～ユーザーの利便性向上&DX推進～
市役所内部での実証事業により環境整備を行った後、
市民等へのサービス提供を目指す

⑥実証事業実施の所感（自治体）

URシステムズの専門的な知識・技術を南相馬市へ提供いただけることで、南相馬市単独では得られない民間の視点を取り入れた取り組みを実施することができるものと感じています。

実証事業名：ドラレコ画像を活用した道路変化点検知

□住む □癒す □学ぶ
 □動く □楽しむ □その他

①実証事業概要

【実施内容】：当社は、タクシー、商用車、公用車向けに普及しているドライブレコーダー（以下 ドラレコ）画像と位置情報、当社地図情報を用いることで「道路変化点検知」を行い、カーナビ用地図データの鮮度向上を目指している。同様の仕組みを用いて、検知した道路変化点を自治体と県警に提供することで、道路設備の不具合を解消するためのリードタイム短縮に活用できるか検討も行っている。浜通り地域のフィールドを活用し、対象地域で走行しているドラレコ搭載車両から「標識・路面標示の摩耗具合」「道路の損傷具合」「危険な植栽」等の情報を収集・確認のうえ、ドラレコ画像の有用性を確認した。

【手順】：①町の危険箇所を道路管理部署から資料提供 ②危険箇所をドラレコ搭載車両にて走査・画像取得 ③取得画像分析、KPIなど整理

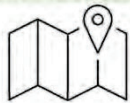
②実証事業結果概要

【効果】：ドラレコ取得画像から危険地点の種類および状態を把握できるか否か、工数削減に繋がるかの検証を行った。分類した危険地点の種類ごとにドラレコ画像から状態を目視で確認し、凡そ危険地点に関しては目視で状態確認ができたが、危険地点の種類ごとに難易度が異なることが分かった。また、自治体とのヒアリングの結果から、ドラレコ画像から危険地点の判別が可能となれば、危険地点を検知するまでのリードタイム短縮と、パトロールにかかるコスト削減を見込むことができる。

【課題】：危険地点ごとに「危険」の程度が調査する担当者によって基準が異なるため、将来的にはAIで検知するためにはこの基準を決める必要がある。一方で基準を設け、AIで検知することができるようになれば、属人的な判断に頼らず作業着手が可能となるのではないかと考える。

【各者役割】

大熊町・浪江町・双葉町



- 必要情報の提供
 - 危険箇所リスト
 - パトロール稼働状況
 - KPI設定に関する事項など

ゼンリン



- 情報取得/処理・分析
 - 対象箇所経路策定
 - 走行画像取得
 - データ分析
 - 数値算出（KPI・人件費）

【結果】

・KPI達成率：72%（c/b）

- a.自治体提供の危険地点数 60地点
- b.aのうちドラレコ画像取得地点 29地点
- c. bのうちドラレコ画像から目視確認できた危険地点数 21地点
- d.ドラレコ画像から新たに発見した危険地点数 21地点

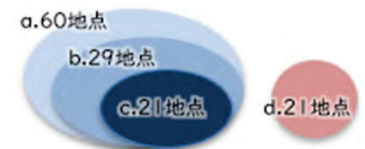
→ドラレコ画像から多くの道路上の危険地点を確認可能だが
 危険地点の種類によって難易度の違いが見受けられた

・道路パトロールにおける人件費（削減率）について

- 自治体の現状の調査コスト：5万6千円/月 ※主に人件費
- ドラレコのコスト：4,500円/月・台 ※別途危険地点のAI検知・自動抽出のライセンス費も加算想定）

→危険地点調査コストの削減も期待できる

<a～dのイメージ>



<危険地点毎のKPI達成率>

危険な地点の種類	KPI ドラレコ画像から目視確認できた割合（c/b）
標識/標示	70%
道路性状の損傷	83%
危険な植栽	100%
その他（主に路側埋没）	0%
合計	72%

③今後の展望

ドライブチャートを活用し、危険地点の収集における効率化が証明できた。今後効率的な画像収集の点において、適切な車両（見回り車両等）の選定を行う必要がある。またドライブチャート以外の方法でも走行画像取得方法を検討するとともに、危険地点をAI検知・判断に関する技術検討も行う。

④実証事業実施の所感

危険地点の種類毎で取得難易度が異なることを確認できた。また、3町の共通事項として、永らくメンテナンスを実施していない危険地点があり、その箇所の損傷具合が大きい地点が多くあると見受けられた。

⑤今後の展望（自治体）

（浪江町） 町公用車でドラレコ画像取得および提供方法の検討。	（双葉町） ・ドラレコ画像の提供方法についての検討 ・危険地点のAI検知・判断技術検討⇒導入に期待	（大熊町） 町内パトロール業務について、危険地点の判断基準は属人的であることから、本事業の実施により基準化が可能となれば、検知の全自動化にまで至らなくとも省力化が期待できる。一方、製品化の際のコストについては要検討。
-----------------------------------	---	---

⑥実証事業実施の所感（自治体）

（浪江町） ドラレコ画像から危険地点発見まで時間を要してしまう。実際の活用には時間短縮が必要。	（双葉町） 危険地点の位置を割り出すにはGPS情報等の解析や、町道を熟知した者の判断が必要となり時間がかかる。	（大熊町） 実施期間が短く、かつ実証事業という形式であるため、事業そのものが自治体に裨益することは容易ではないが、これを呼び水として自治体にとって有益な取組が誘発されることを期待したい。
--	--	--

ドローンを活用した山林測量、山林管理の生産性向上

□住む □癒す □学ぶ
□動く □楽しむ □その他

①実証事業概要

中山間地域 / 山林は、木材など資源の供給のほか、水源涵養や治山による防災効果、生活環境保全などの多面的機能を有しています。

これまでの山林管理は、人力による測量や目視による病虫害被害の確認によって実態把握を進めていました。従来の方法は多大な労力を費やす一方、限られた範囲のみのデータに留まり、広範囲での現状把握が難しいという課題がありました。

実証事業では、フジタで開発中のドローン緑地管理手法を用いて山林を3次元化することで、山林管理における測量作業や樹種などの把握の効率化手法を南相馬市、飯館村において実施しました。これにより、山林から地域の豊かで安全・安心な環境の創出を目指します。

②実証事業結果概要

自治体からの要望：①樹高・胸高直径・樹種・地形データの取得 ②病虫害被害の確認 ③作業の省力化

ドローン測量で可能なこと

- ①：樹高・地形・樹木(樹頂点)の位置計測
- ①②：高解像度のオルソ画像での樹種や病虫害被害の判別(目視)
- ③：2～3haを20分程度で測量可能、地表データも取得可能

ドローン測量の課題として残ること

- ①：胸高直径の計測は針葉樹・広葉樹ともに今回使用のレーザーでは困難
→今回はバックパック型レーザーによる測量にてデータを補完
(バックパック型は樹種毎の自動判別が困難)
- ②：病虫害被害を受けた樹木の自動判別は今回の解析ソフトでは困難

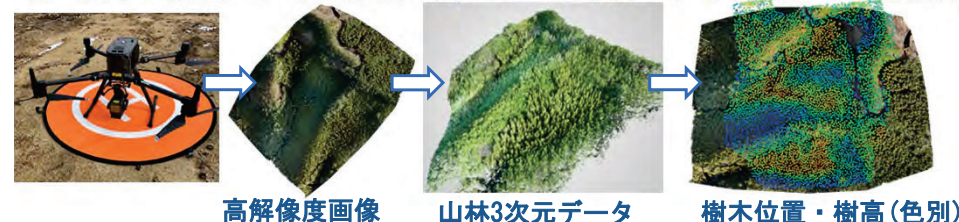
樹木解析

3次元データから樹木を1本ずつ抽出→位置、樹高等を自動解析。

- ①：実測値との差 樹高：2%(ドローン) 直径：8%(バックパック型)

※落葉期の広葉樹では、枝ぶりなどの要因により誤処理が発生。

→春～夏季の計測により正確性の高いデータ取得により、改善の可能性あり。



高解像度画像

山林3次元データ

樹木位置・樹高(色別)

◆ 短時間での3次元測量により、人力では不可能な広範囲の山林を可視化し、管理の効率化を図れる。

◆ 伐採、造林、整備などの計画、管理データとして使うことで、山林管理事業の生産性向上に寄与できる。

防災効果と資源の活用向上

③今後の展望（企業）

- ・ 針葉樹・広葉樹の最適な計測・解析手法をさらに探り、知見の蓄積により、データの信頼性、更なる精度向上を図ります。
- ・ 高解像度画像から樹種や病虫害被害を自動判別する手法を検討します。
- ・ 山林の放射線測量手法について検討します。

④実証事業実施の所感（企業）

事業主体の実務内容、要望のヒアリングを通して、計測方法の改善、データの活用方法の提案を行い、事業の効率化、森林が持つ防災機能の強化、生活環境の向上に貢献したいと考えています。

⑤今後の展望（自治体）

【南相馬市】森林病虫害の被害調査等活用幅の拡大を期待します。電波環境の悪い箇所での運用範囲拡大を期待します。

【飯館村】樹種や病害木の精度向上を期待します。支障木や放射能のたまりやすい場所の特定などに応用したいです。

⑥実証事業実施の所感（自治体）

【南相馬市】当初の想定以上に短時間で広範囲、高精度な情報が得られたことから、活用の容易さを感じました。

【飯館村】施工前の計画や進捗状況の説明の際に便利だと感じました。気軽に安価に使用できる体制を作ってほしいです。